ROS勉強会 < 入門編 >

発表日:2013年8月2日

作成者:前川 大輝

野崎 耕平

目次

第零章:この勉強会の位置づけ

第一章:ROSとは

第二章:RGBDセンサの制御

第三章: rviz

第四章: 3D点群処理

第零章:この勉強会の位置づけ

- ■あくまでも入門編なのでわかりやすさ重視
- ■ROSを用いることで何ができるのかについての説明
 - → 詳細は公式ドキュメントを参照

第一章: ROSとは

- ■ロボット制御用のミドルウェア
 - → Willow Garage社が開発・保守している

通信の基本単位

■ソフトウェアの単位 → ノード

- ■ロボットのセンサやアクチュエータなどを別々のノードと して定義
 - → それを組み合わせ分散システムを構築

ノードの種類

■ノード → パブリッシャー (データ送信) → サブスクライバー (データ受信)

トピック

ノードの種類

- ■ノード → サービス(特定の処理)
- ■サービスは利用側(多くはノード)からリクエストを受け取ると特定の処理を行うもの

パラメータ

- ■トピック以外のデータを送受信するための仕組み
- ■パラメータサーバがデータを保持
 - → 他のノードからの変更は通知される

マスター

■ノードやトピックの管理を行う

■roscoreというプロセスにより提供される

パッケージ

- ■機能ごとに分類されたノードやライブラリの単位のこと
- ■パッケージを管理するための便利なコマンドが多数提供され ている
- ■ロボット用のオープンソースパッケージが多数公開されている

第二章: RGBDセンサの制御

ノード間通信の具体例として

ROS上でXtionを取り扱う方法を解説

パッケージのインストール

sudo ros-groovy-openni-camera sudo ros-groovy-openni-launch sudo ros-groovy-openni-tracker

OpenNIをROS向けに改良したもの

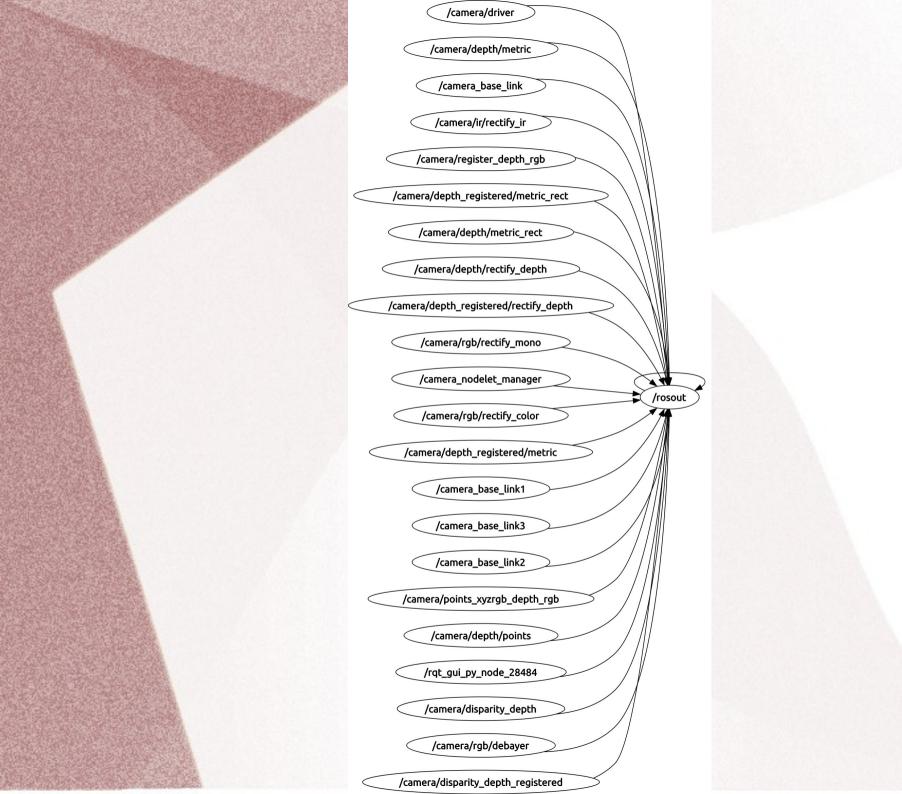
Xtionからの情報を配信

roslaunch openni_launch openni.launch

Xtionのデータがトピックにパブリッシュされる

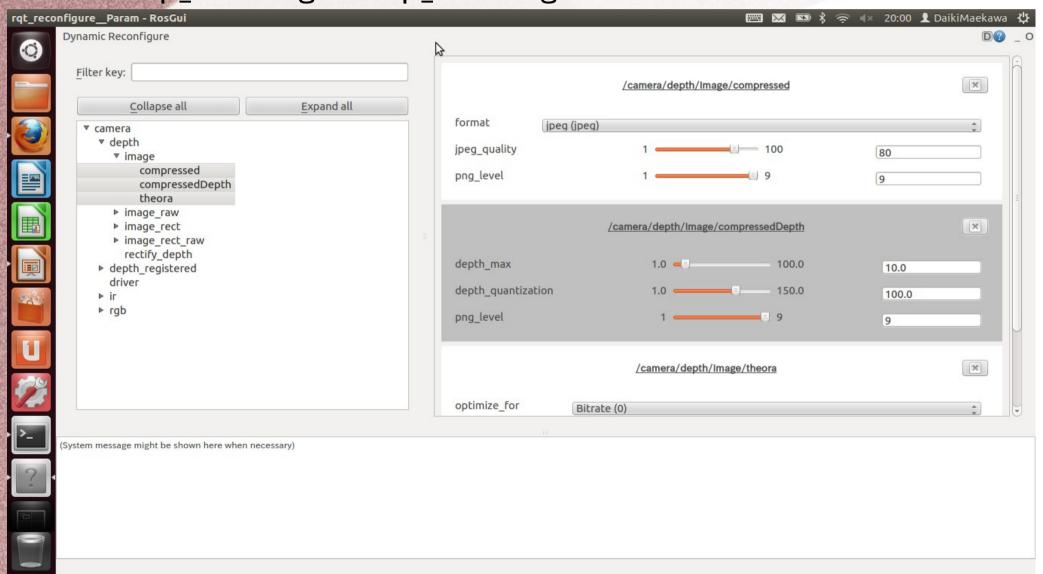
Xtionからの情報を配信

rqt_graphでノード間通信をグラフ化すると…



ノードのパラメータ編集

rosrun rqt_reconfigure rqt_reconfigure

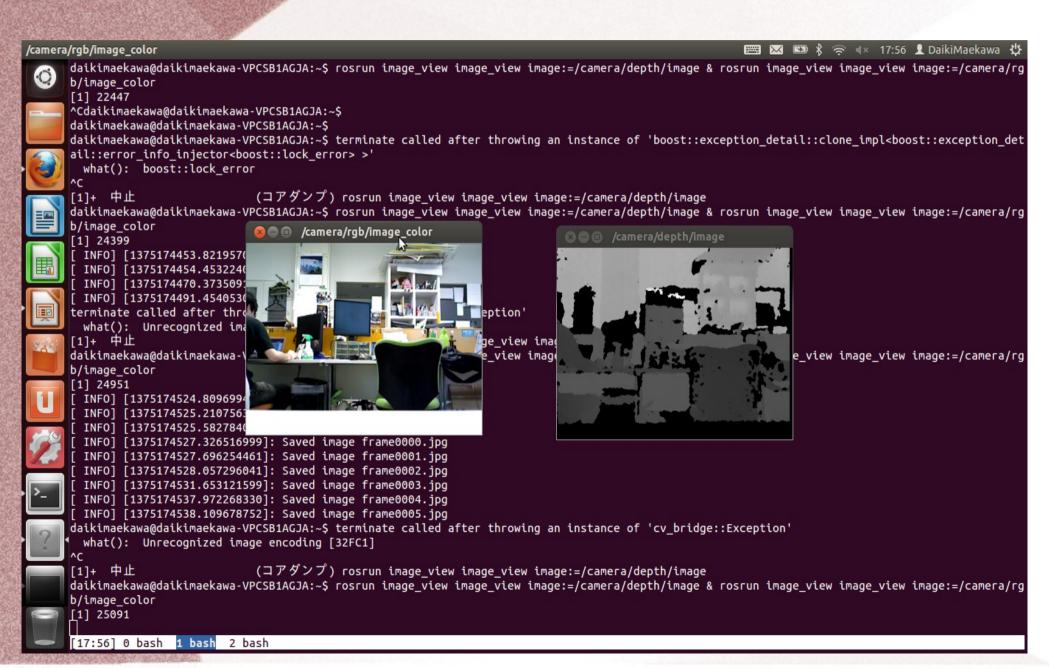


以下のトピックに注目

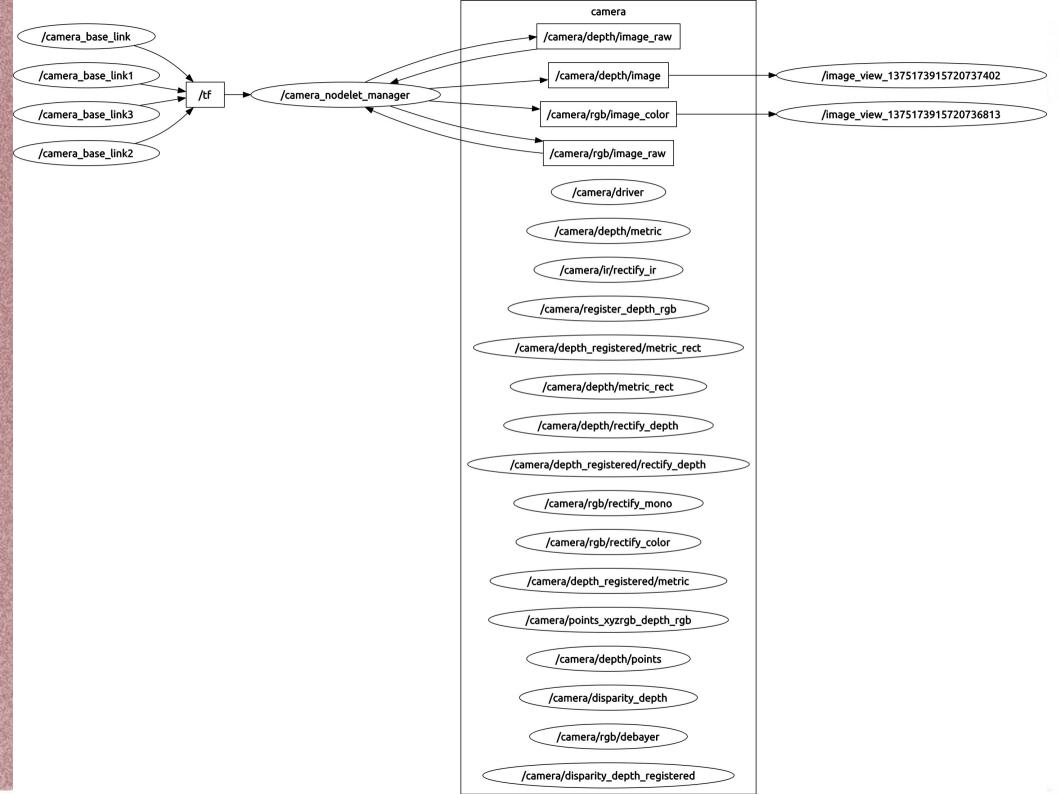
- ■デプス画像 → /camera/depth/image
- ■RGB画像 → /camera/rgb/image_color

rosrun image_view image_view
image:=/camera/depth/image &
rosrun image_view image_view
image:=/camera/rgb/image_color

imageというトピックをそれぞれのデータに合わせてリマップ



rqt_graphでノード間通信をグラフ化すると…



骨格情報の取得

■rosrun openni_tracker openni_tracker

データの記録と再生

- ■デバックの度にXtionを用意し、体を動かすのは面倒
 - → ROSなら簡単にデータを記録、再生できる

ROS上のデータにあたるトピックが対象

トピックの記録

- ■パブリッシュされているトピックを記録
 - → rosbag record トピック名
- ■終了はCtrl-C
 - → 「年月日 + 時間 + .bag」ファイル(バグファイル)を生成

パブリッシュされているすべてのトピックを記録したい場合 rosbag record -a

演習 1

- 1)配布されたバグファイルの内容を表示してから再生してみよう
- 2)バグファイルに記録された画像データをimage_viewに 表示してみよう
- 3)rvizを用いて骨格情報を視覚化してみよう

バグファイルを調べる

■rosbag info バグファイル名



バグファイルの再生

■rosbag play xtion_data.bag

SPACE : 一時停止 s : ステップ

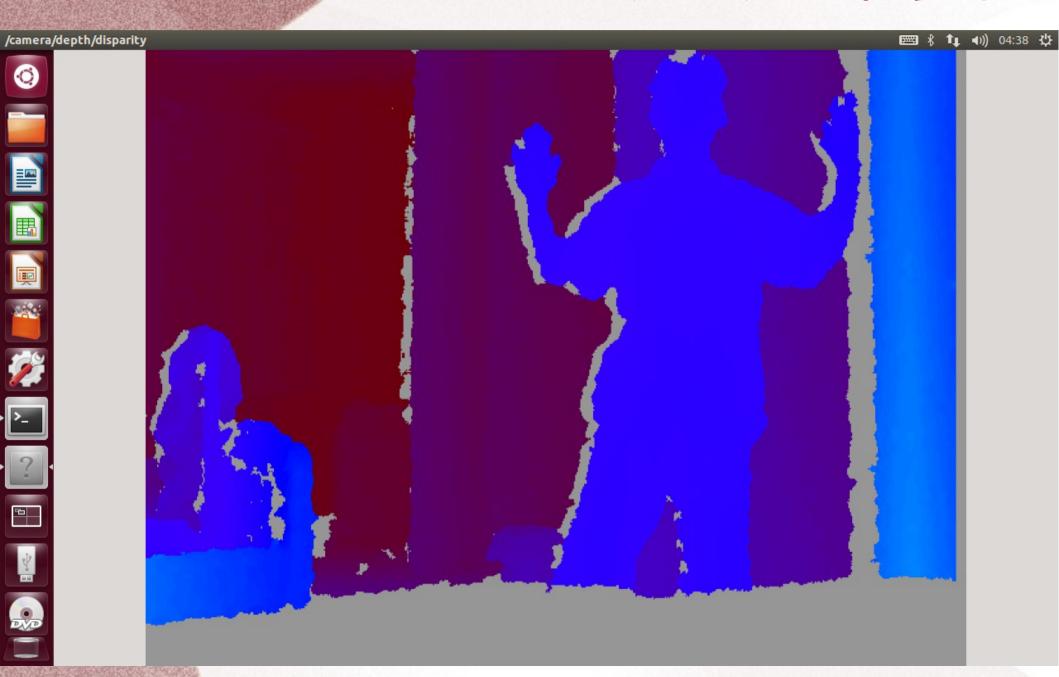
どうなるのかな?

以下のトピックに注目

■デプス画像 → /camera/depth/disparity

■rosrun image_view disparity_view image:=/camera/depth/disparity

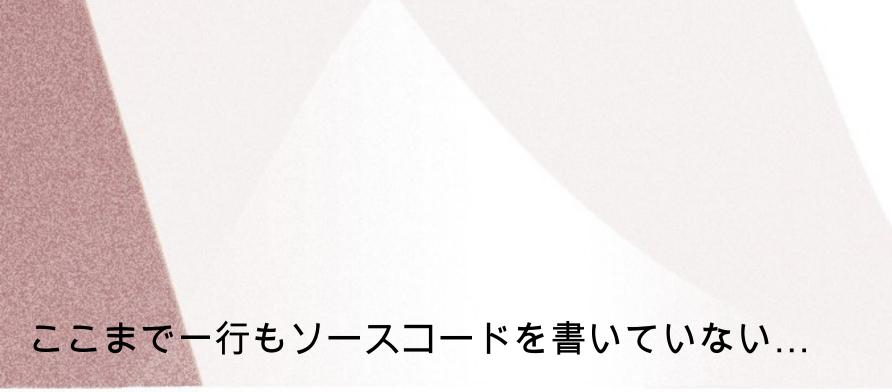
imageというトピックからdisparityにリマップ



骨格情報の視覚化

- ■視覚化
 - → rosrun rviz rviz





次の章からはプログラムも交えて解説する

第三章: rviz

骨格情報を表示する際に用いたrvizについて解説する

URGでも使ってみよう

実演

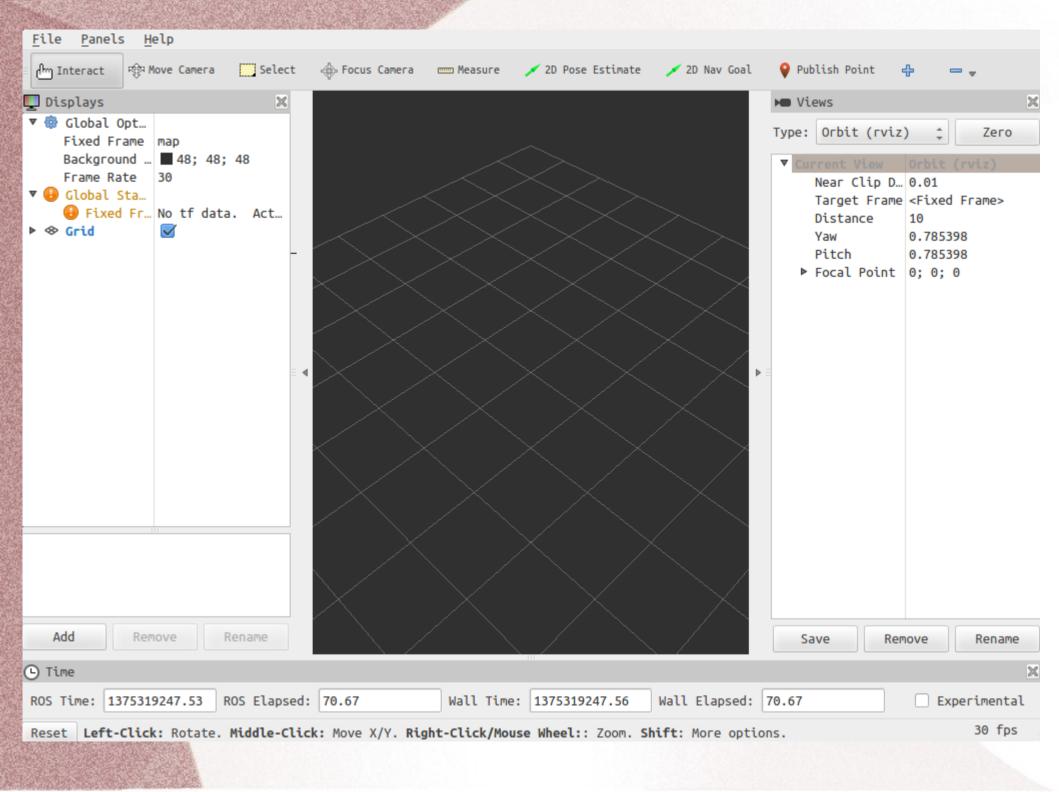
rvizとは

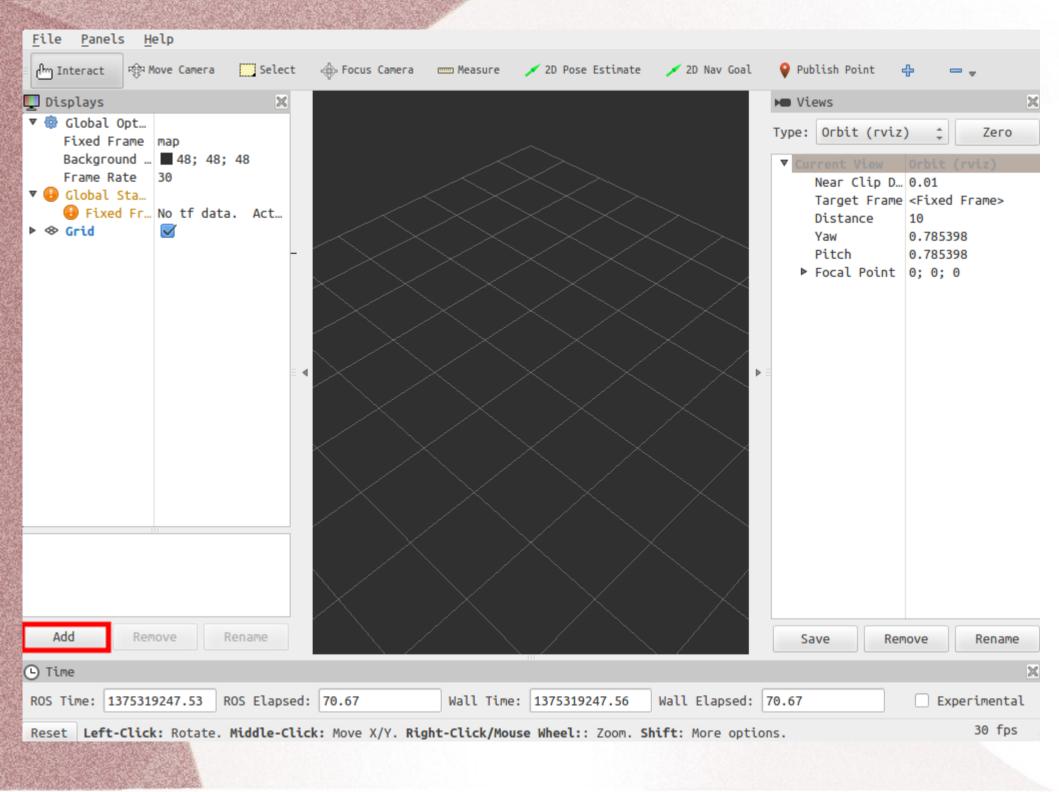
ROS Visualization _{医出典}

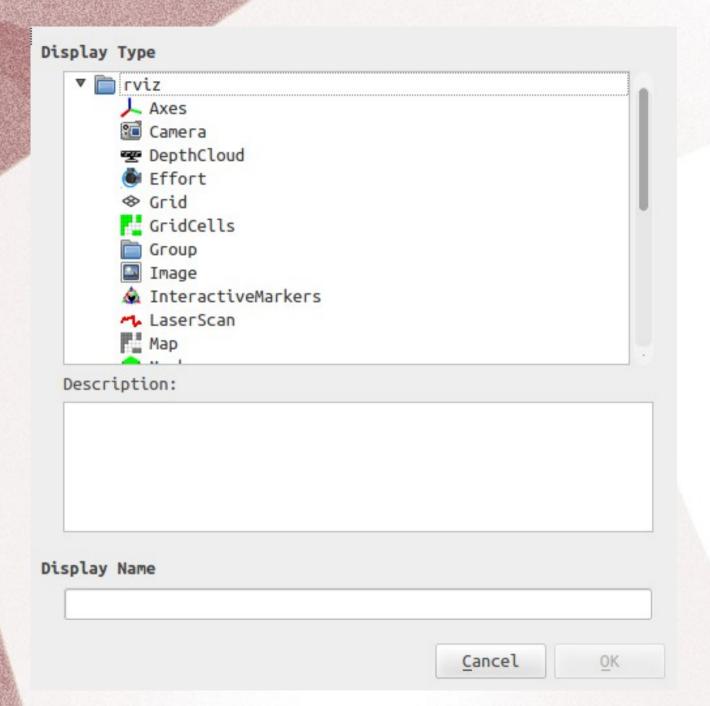
データを 3次元マップ上に 可視化

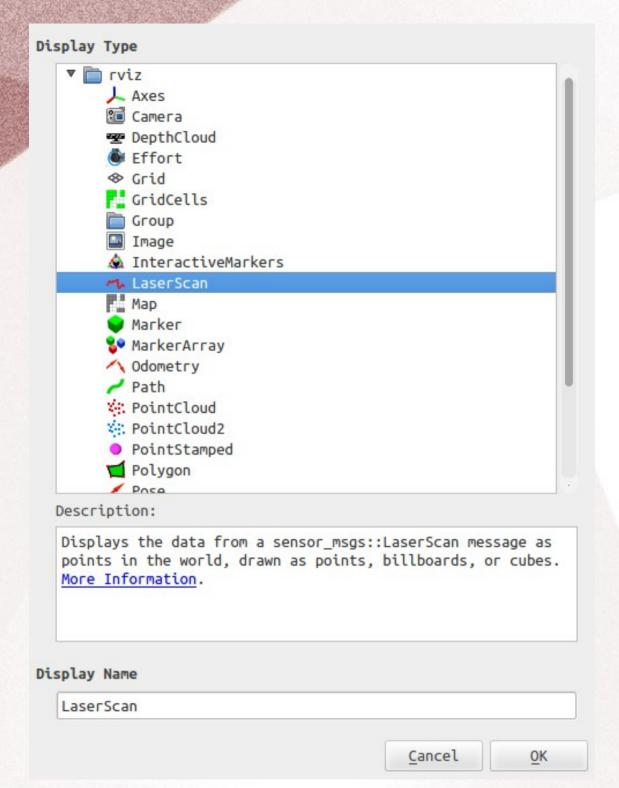
みなさんも使ってみよう

- ■rvizを起動
 - → rosrun rviz rviz



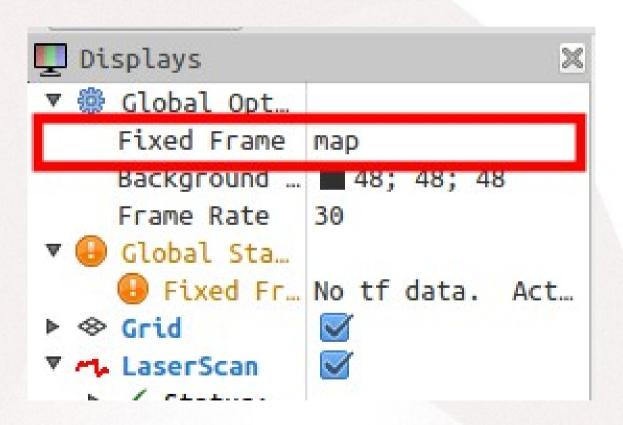






- ■バグファイルの再生
 - → rosbag play urg_data.bag

frameの設定が必要

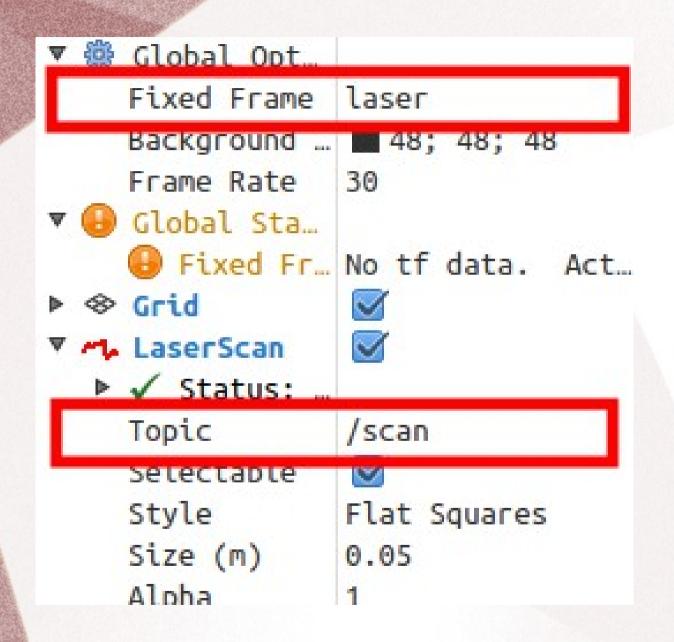


送信データ確認

rostopic echo /hokuyo_node/parameter_descriptions

↑ 一行で

→ frame_id が対応する名前



トピックを送信する プログラムを 書いてみよう

パッケージ作成

catkin_create_pkg exercise roscpp visualization_msgs tf

catkin_create_pkg exercise roscpp visualization_msgs tf

わかりやすい_[要出典] プログラムの流れ

- 1. 初期設定
- 2. 送信データ作成
- 3. 送信

- 1. 初期設定
- 2. 送信データ作成
- 3. 送信

使用するヘッダファイル

```
#include <cmath>
#include <ros/ros.h>
#include <tf/transform_listener.h>
#include <visualization_msgs/Marker.h>
```

```
ros::init(argc, argv, "test");
// ノード作成
ros::NodeHandle n;
// publisher(データ送信部)作成
ros::Publisher marker pub =
 n.advertise<visualization_msgs::Marker>
  ("visualization marker", 10);
// データ送信周期設定(秒間30回)
ros::Rate r(30);
```

```
// 送信するメッセージの格納先
visualization_msgs::Marker line_strip;
// frame_id (URGのlaser) 好きな名前で
line_strip.header.frame_id = "practice";
// ネームスペース, これも好きな名前で
line_strip.ns = "practice";
line_strip.id = 1;
```

```
// マーカーのタイプを連続線に
line_strip.type =
 visualization msgs::Marker::LINE STRIP;
line_strip.action =
 visualization msgs::Marker::ADD;
// 線の太さ
line_strip.scale.x = 0.1;
// 色の設定(青)
line_strip.color.b = 1.0;
line strip.color.a = 1.0;
```

- 1. 初期設定
- 2. 送信データ作成
- 3. 送信

2. 送信データ作成

```
// 現在の時刻を設定
line_strip.header.stamp = ros::Time::now();
// 描画する座標の姿勢を指定
float phai = 0.0;
line_strip.pose.orientation.z = sin(phai/2);
line_strip.pose.orientation.w = cos(phai/2);
```

2. 送信データ作成

```
for (int i=0; i<=10; ++i) {
// 星型の各頂点を計算
float radius = i\%2 ? 6.0 : 3.0;
float theta =
 (72.0*(i/2) + (i\%2)*36.0)*M PI/180.0;
geometry_msgs::Point vertex;
vertex.x = radius*cos(theta);
vertex.y = radius*sin(theta);
// データを格納
line_strip.points.push_back(vertex);
```

- 1. 初期設定
- 2. 送信データ作成
- 3. 送信

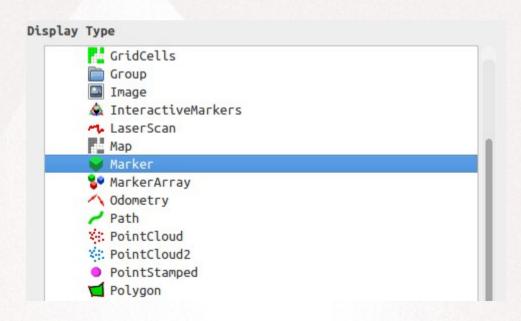
3. 送信

// データ送信 marker_pub.publish(line_strip);

rvizで見てみよう

frame_id → practice

Markerを追加



ループしてみよう

```
while (ros::ok()) {
 // 送信データ作成部(2)
 // 送信(3)
 // 今回送ったデータをクリア
 line_strip.points.clear();
 // 図形を回転させる
 phai += 0.05;
 if (phai > 2*M_PI) phai -= 2*M_PI;
 // 周期のための待ち合わせ
 r.sleep();
```

この章 → rvizを通してパブリッシャーの作り方を学んだ

次の章 → pclを通してサブスクライバーについて学習する

第四章: 3D点群処理

ROS上でのPointCloudLibrary(PCL)の扱い方を説明

PCLとは

- ■3D点群データ処理を集めたオープンソースライブラリ
 - → Kinectなどの安価な3Dセンサの登場により注目を集めた

データ形式

■PCL専用の点群データ形式(.pcd)を用いる

演習2

1) Xtionから取得したデータを3次元空間として表示せよ

/camera/depth_registered/pointsを 収集したバグファイルを配布

プログラムの編集

■rosed パッケージ名 ファイル名

■rosed cloud_view xtion_cloud_view.cpp

サブスクライバーの設定は?

```
class RosCloudViewer{
     pcl::visualization::CloudViewer m viewer;
     ros::Subscriber m pcSub;
public:
     typedef pcl::PointCloud<pcl::PointXYZRGB> PointCloud;
     RosCloudViewer(ros::NodeHandle & node):
          m viewer("RGB-D Sensor Cloud Viewer").
                          m pcSub(?)
                                             template<class M , class C >
                                             Subscriber ros::NodeHandle::subscribe(
                                                  const std::string &
                                                                                    topic,
     void run(){
                                                  uint32 t
                                                                                    queue size.
         ros::spin();
                                                  const boost::function<void(C)> &
                                                                                    callback)
private:
    void receivePointCloudCb(const PointCloud::ConstPtr & msg){
         m viewer.showCloud(msg->makeShared());
```

サブスクライバーの設定は?

```
class RosCloudViewer{
    pcl::visualization::CloudViewer m viewer;
    ros::Subscriber m pcSub;
public:
    typedef pcl::PointCloud<pcl::PointXYZRGB> PointCloud;
    RosCloudViewer(ros::NodeHandle & node):
         m viewer("RGB-D Sensor Cloud Viewer"),
         m_pcSub(node.subscribe<PointCloud>("points", 1,
              boost::bind(& RosCloudViewer::receivePointCloudCb, this, boost::lambda:: 1)))
    void run(){
         ros::spin();
private:
    void receivePointCloudCb(const PointCloud::ConstPtr & msg){
         m viewer.showCloud(msg->makeShared());
```

ROSの初期化方法は?

プログラムのビルド

_cd ~/ros_pcl_tutorial/tutorial_ws

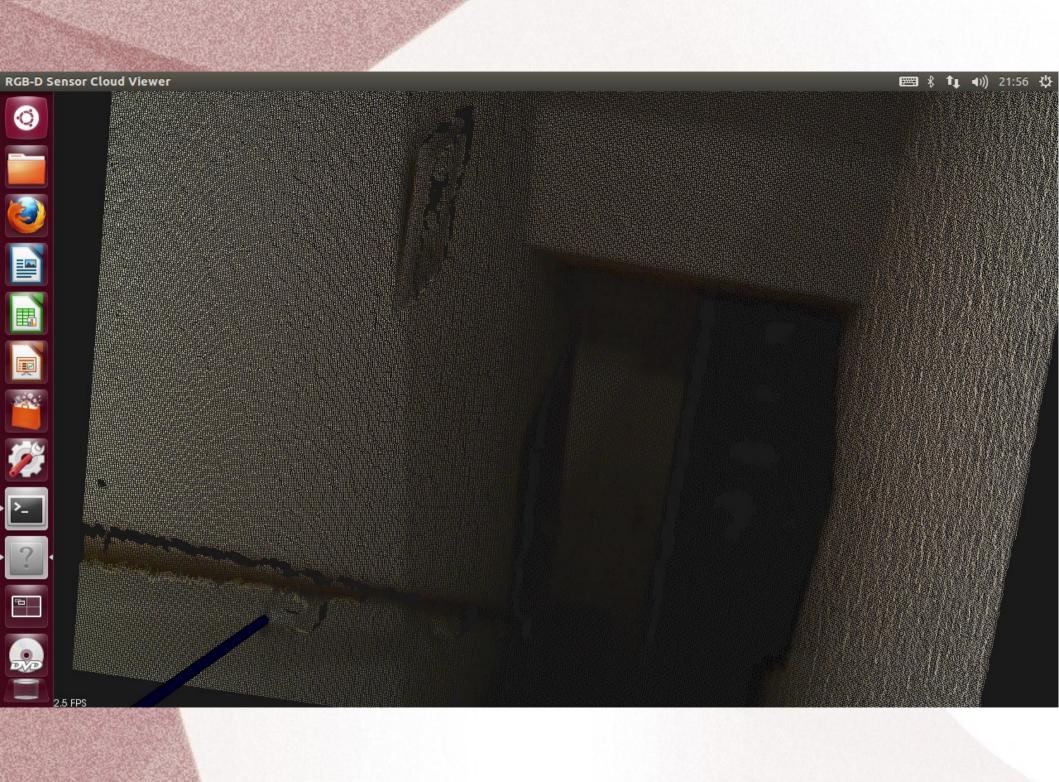
■catkin_make

プログラムの実行

■roscore

points:=/camera/depth_registered/points

rosbag play point_cloud.bag



以上でROS勉強会<入門編>は終了です ご清聴ありがとうございました